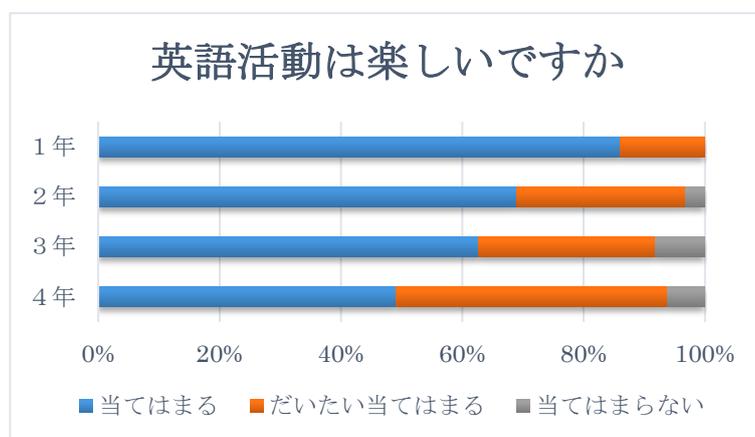


令和4年度特別の教育課程の実施状況等について

1 自己評価結果

令和4年度、1～4年生の児童にアンケートを行ったところ、「英語活動は楽しいですか」という質問に対し、「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した児童は、どの学年も92%以上でした。年齢が上がるにつれ内容も難しくなり、苦手意識を抱く児童も見られることから、4年生では、「当てはまる」と「だいたい当てはまる」が同じくらいとなっています。難しさを感じつつも取り組み方の工夫により、楽しいが大半を占めていると考えられますが、児童の英語活動への意欲を高め、高学年の外国語学習へ円滑に橋渡しをすることが課題です。（資料3）

全体的には、楽しんで活動している様子から、日常的に英語の発音に触れたり動作化を通して体感したりすることで、英語に親しんでいることがうかがえます。また、DVDの視聴で身に付いたことが外国語活動（先生との英語の授業）と結びつき、効果が上がっています。

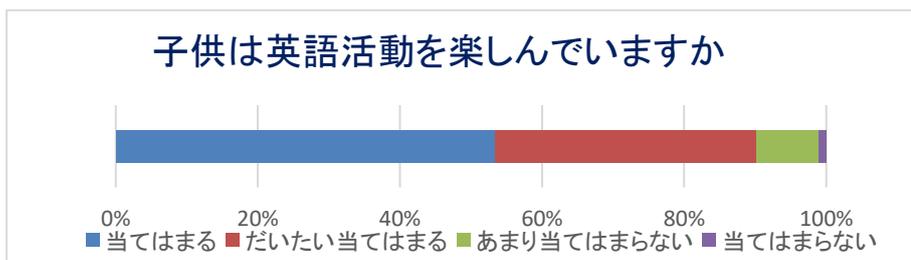


【資料3 令和4年度 児童アンケート結果】

2 学校関係者評価結果

令和4年度に行った保護者向けアンケートでは、「子供は英語活動を楽しんでいますか」という質問に対し、「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した保護者は全体の91%でした。（資料4）児童の結果と合致しており、家庭で英語活動について話題にしていることがうかがえます。

年間を通して、授業参観や学校評価委員会などの折に活動の様子を見ていただいています。子供の生き生きとした活動ぶりや、継続的に取り組んでいる成果を評価していただきました。コロナ禍で対面での会話が制限される中、DVDの視聴という無理のない方法が、子供たちの学びの場を保障したことを評価された地域の方もいらっしゃいました。



【資料4 令和4年度 保護者アンケート結果】

3 まとめ

英語活動が日々の活動として定着していることで、子供たちは抵抗感なく英語の学習に取り組んでいます。その結果、簡単な単語や基本的な会話の技能の習得につながっています。また、低学年から、ネイティブスピーカーの発音を日常的に耳にすることで、自然な発音や英語らしいイントネーションが身に付いていると感じます。

学年が上がるにつれて、会話で使われる英文が難しいと感じる子供も増えているようです。教師の働きかけにより、英語活動を楽しむこと、英語に慣れ親しむことができるよう工夫していく必要があります。今後も、外国語活動とつなげ、コミュニケーション能力の育成を目指して、継続していきます。